



11/28 定期大会開催。これからもうろうく

十一月二十八日「NPO

みなと合同ケアセンター」

で南労会支部定期大会を

開催しました。戦争法強

行成立、沖縄・TPP・

原発再稼働・社会保障切

捨て・橋下維新の同日選

「勝利」等、私たちが歴

史の大きな分岐点にいる

こと、その背景は？人間

らしい社会をつくるため

にどう闘っていくのか？

そんな課題と、日常的な

足元のテーマを考え、今

後の方針を確認しました。

港合同からはH副委員長

に挨拶を頂きました。

今年は第一部として

「介護問題を学ぶつどい」

を企画し周辺の介護関係

者にも呼びかけました。

会場は田中機械ホール。

日下部雅喜さん（社会保

障推進協議会介護保険対

策委員・現職地方公務員）

から「命を守る介護・社

会保障をつくりだそう！

戦争する国アカン！」と

題する講演を頂きました。

第三部は講師を交えて

の交流会兼忘年会。港合

同田中機械支部ご自慢の

地ビール「地底旅行」と

あったか〜い鍋に舌鼓を

うちながら、それぞれの
テーブルで会話が弾みま
した。

活動の主体は組合員

南労会支部は昨年の大

会で三つの班割りを決め

ました。（医）南労会松

浦診療所および紀和病院

グループで働く組合員は

南労会班、「NPOみな

と合同ケアセンター」の

組合員はケアセンター班、

退職者はOB班です。

それぞれ労働条件や立

場、抱えている問題は異

なりますが二十二年争議

を闘いぬいた組合員と、

労働者事業である「NP

Oみなと合同ケアセンター」

に合流した仲間が一つの

支部として課題を共有し

連帯を深めていこうとい

う思い、同時に春闘・一

時金闘争はもとより職場

の問題を解決していく主

体はそこで働く各組合員

であることを踏まえた支

部運営に心がけてきた一

年でした。

南労会班

配転・パワハラで発病

南労会では一年間で二

組合員が業務に起因する病で倒れました。紀和病院に転勤させられたAさんは長時間通勤と業務内容変更のストレス等から病休に。松浦診療所でケアマネージャー部門に配転されたBさんもパワハラで発病。元凶は組合つぶしの功労で二〇年以上管理職待遇の厚遇を受けてきたSK子氏。この介護部門は職員間で「人材の墓場」とも言われ、SK子の問題は今までも指摘されてきました。

経営側が「松浦診療所再建の柱」と位置付けた部門が真逆の方向に足を引っ張っているのです。パワハラを正す指導がでない経営側も含めて、争議の負の遺産がこんな形で浮き彫りにされ、組合として大きな悔いと反省を残しました。経営側は労災問題として直視せず責任逃れの姿勢、争議中に紀和病院転勤を強制されたI組合員の松浦診療所復帰も未だ拒否。

大会には、病休中の二人とIさんも笑顔で出席。ホッとさせてくれましたが、当該と充分話合いながら、南労会の「労働者の命と健康を守る」原点にたって解決を求めている必要があります。多数を占める非正規職の問題も手つかずのままで引き続きの課題です。

ケアセンター班
介護切捨てとの闘い
今、介護事業所が抱える最大の問題は「介護切捨て」攻撃（後述）です。既に倒産件数は過去最高を記録。それは多くの労働者が解雇され、利用者も振り回され困っているということでもあります。ケアセンターの切実な課題は、この逆風に立ち向かって日々の運営・経営を維持し、職員の賃金・労働条件を守っていく事。同時に攻撃の根源である国・厚労省に対し法制度改善の撤回、さらには改善を求める運動を推進し、安心できる社会的介護体制を実現していくことです。

そのために友好労組とともに「労働運動再生のための懇談会」の医療・福祉部会として「安心できる介護を！懇談会」を立ち上げ、学習会開催、厚労省交渉、大阪市との意見交換会などを行ってきました。特に厚労省交渉では「障がい者六五才問題」で大事な確認をとりました。まだ小さくゆっくりにした歩みですが開始した意味は大でした。

今後、労働運動と介護労働者全体に、そして大社会問題となる介護・社会保障の切捨てとの闘いに少しでも役立てる運動

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

としていくことは、南労会闘争への支援連帯に對するお返しでもあります。

住民投票・戦争法反対

昨年末、衆議院解散総選挙、今年四月統一地方選挙、五月「都構想」の住民投票、戦争法廃案の闘い、十一月知事市長同日選など目まぐるしい一年でした。特に橋下維新との闘い＝住民投票、安倍の秘密法・戦争法との闘いは暮らして命、平和、民主主義、地方自治のあり方がかった闘いです。多くの組合員が熱く主体的に闘い、地域の人々と連帯を深め、大きな財

産を今後に残しました。

「保険料あって介護なし」

第二部学習会・日下部さん講演は「そもそも社会保障とは」「憲法二五条とは」という話から。そして四月介護保険改悪・報酬引下げにより、介護がドンドン必要となっていく状況の中で介護事業所が減少局面に入っているという重大問題、「要支援切り」と言われる介護サービス制限に對し大阪市が構想している内容などが話されました。さらに恐るべき今後の改悪内容にも言及。「要介護二」までの切捨て、

自己負担を広く二倍化、福祉用具や住宅改修は保険外に、マイナンバーで資産を丸裸にして更なる給付制限、介護保険料は一万円超など等、「保険あって介護なし」を更に現実のものに。

他方で青天井、莫大な軍事實態が防衛省HP掲載の写真つき資料を使って示されました。これ見たら「ええ加減にせよ！」と皆怒るはず！

介護の賃金を世間並みに！ 「介護労働者の離職ゼロ」 を実現しろ！

安倍の「介護離職ゼロ」を、介護労働者は「介護

労働者の離職ゼロ」と思っただという話も出ました。

ちなみに先日、「安心できる介護を！懇談会」は厚労省に對し、「『介護離職ゼロ』を叫ぶ前に『介護労働者の離職ゼロ』を！その為に税を投入して介護労働者に世間並み賃金・労働条件を保障せよ！」と、数十項目の再要求を提出しました。

今年の支部執行体制は新執行委員として樋口曜さんを迎えました。ケアセンター職員五年目の介護福祉士です。新役員ともども、南労会支部をこれからもよろしく願います。